様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２３ 日現在

機関番号：３２６４４
研究種目：若手研究
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ２０５３２

研究課題名（和文）北欧型福祉国家の普遍性：フィンランドの政党政治と社会政策の関連に焦点を当てて

研究課題名（英文）Universalism of the Nordic Welfare System: Focusing on the Relations between Party Politics and Social Policy in Finland

研究代表者
柴山　由理子（Shibayama, Yuriko）

東海大学・文化社会学部・准教授

研究者番号：４０８２４８６８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：　フィンランドの福祉国家建設過程における農民政党の影響の大きさを明らかにしたことが本研究の成果である。スウェーデンを筆頭とした福祉国家の北欧モデル研究では、労働勢力の権力を動員した社会民主主義政党の役割に焦点が当てられている研究が多いが、フィンランドでは、農民政党の影響力が強かった。1937年国民年金法制定には農民同盟の意向が働き、同法を運用した国民年金機構（Kela）はその後役割を重層化させて社会政策の主要アクターとなる。賃金労働者を対象とした社会民主党に対し、農民同盟はすべての人を対象とする一律給付型の保障を主張し、ベヴァリッジ型の仕組みがその基礎に埋め込まれたことも特徴として挙げられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　スウェーデンを筆頭に福祉国家の北欧モデル（社会民主主義レジーム）建設の研究は労働勢力の動員が中心であったが、フィンランドの事例を通じて、農民勢力の影響が強い「社会民主主義レジーム」を示し、北欧モデルの理解に多様性をもたらした。また、年金制度、健康保険制度、失業保険制度など、フィンランドの社会政策の仕組みが複雑で独特の形態を持つ理由を、農民同盟と国民年金機構（Kela）の経路依存から説明することを可能とした。これまで福祉国家の制度は分野別に研究されていたが、政治との関係を明らかにするとともに、制度間のつながりを示した。

研究成果の概要（英文）：　One of the main results of this research is that it clarified the extent of the influence of the agrarian party in the process of building the welfare state in Finland. In research on the Nordic model of welfare states, with Sweden at the forefront, many studies have focused on the role of social democratic parties that mobilized the power of labor forces, but in Finland, the agrarian party, had a strong influence. The National Pension Act of 1937 was enacted and the National Pension Institute (Kela), which was established to implement the act, subsequently multiplied its role and became a major actor of social policy.
　The country's pension system, health insurance system, and unemployment insurance system have seen a dual development of two systems: a flat-rate benefit system covering everyone across the country and a quasi-corporatist income-proportional system. Bismarckian-style social security was weaker, instead a Beveridge-style system embedded in its foundations in Finland.

研究分野：比較政治学

キーワード：社会民主主義レジーム　農民政党　福祉国家フィンランド　普遍主義　国民年金機構（Kela）　経路依存　年金制度　健康保険制度

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

福祉国家フィンランドの研究の蓄積はこれまであまり多くない。日本では、山田、高橋、藪長らが、社会保障制度（高齢者福祉や障害者福祉など）、地方行政制度との関りなどを明らかにしてきているが、福祉国家建設の政治過程に焦点を当てた研究はなかった。国際的にも、北欧の研究はスウェーデンやデンマークのものが多く（政治学ではノルウェーも進んでいる）、北欧の複数国を対象とした研究でもフィンランドが網羅されていないことも多くある。フィンランド国内では、新制度学派を中心とした研究がある程度蓄積されているが、比較福祉国家論における位置づけなど相対的な研究はあまり発展していない。

本研究の関心は、ソ連／ロシア、スウェーデンの隣国フィンランドが、どのように北欧型福祉国家を建設したのかということである。またその政治過程からどのような特徴を捉えることができるのかというものである。これまでの研究で、フィンランドは 1960 年代に遅れて「社会民主主義レジーム化」した事例であることは明らかとなっている。

またフィンランドの事例から北欧型福祉国家の建設やその内容にもバリエーションがあることを示し、特に北欧型福祉国家の「普遍主義」への解釈を深めていく必要がある。北欧型福祉国家の本質を問うことは、ポスト工業社会における社会保障改革・北欧型福祉国家の変容をも理解する手掛かりとなると考える。

２．研究の目的

本研究では、フィンランドの政党政治についての研究、および政党政治の社会政策形成過程への影響から、フィンランドの社会政策の特徴を明らかにする。

２．研究の方法

比較政治学（特に新制度論）による分析を主に用いた。文献や議会議事録等の資料から、フィンランドにおける政党政治の変遷、主要政策への影響、主要政策の発展過程を明らかにしていく。政党政治では、国民連合党、進歩党、スウェーデン語系国民党、農民同盟（中央党）、社会民主党、人民民主同盟（左派同盟）、そして近年のキリスト教民主党、緑の党、真のフィンランド人党の政党分布および各党の社会政策への関与を分析する。

また、フィンランド社会政策の主要アクターである国民年金機構（Kela）の農民政党との関りを明らかにし、Kela とフィンランドの社会政策の発展経緯の相互関係を詳細に追う。Kela は 1937 年に発足した議会直属の公的機関であるが、同様の機関は他の北欧諸国には見られずフィンランド独特の仕組みと言える。

さらに、社会政策の主要制度である年金制度、健康保険制度、失業保険制度導入の政治過程を明らかにし、福祉国家フィンランドの特徴を捉える。

３．研究成果

本研究により、下記のことが明らかになった。

①フィンランドの社会政策は農民政党の影響力が強い。社会民主党よりも優位性が見られた。
②フィンランドの農民政党は、青年フィンランド人党（のちの進歩党）をルーツとした保守主義とリベラリズムの要素を強くもった政党である。政党政治においてソ連の存在などさまざまな理由から農民同盟が伸長した。
③初期社会政策の大改革として、1937 年の国民年金法の制定があるが、これは社会民主党が主張した「社会保険法案」を農民同盟が置き換える形で制定された。賃金労働者対象ではなく、全国、すべての人が対象となるベヴァリッジ型の仕組みであった（ビスマルク型の仕組みが退けられた）。
④国民年金法の制定によって発足した国民年金機構（Kela）が、その後、農民同盟との相互関係により、社会政策の主要アクターとしての影響力を強め、国民年金のほか、健康保険、その他基礎保障の現金給付など機能を重層化し、その役割を強めていく。
⑤農民同盟、Kela が拒否点となる、もしくはそれらを迂回する形で、社会民主党や国民連合党が支持した職業年金や産業保健制度が整備され、二重の発展がパターン化した。フィンランドの社会政策の仕組みは、複雑かつ独特の形態を持つに至った。
⑥フィンランドの社会政策の特徴として、農民政党優位（地方への強い再配分機能）による普遍主義という特徴が強く認められるが、1960 年代以降北欧型福祉国家としての水準を身につけていく際に所得比例型保障が補完され独特な形態を示していく。

これらの成果を北ヨーロッパ学会や比較政治学会で報告し、論文（査読付き論文５本）として投

稿した。その他、学内外の研究会や雑誌論考等にも研究成果を発表した。

年度別の主要な業績は、下記の通りである。

2019 年度
論文
徳丸 宣穂、柴山 由理子「フィンランドにおける普遍主義の特質とベーシックインカム社会実験」査読有)、北ヨーロッパ研究 15 巻、13-24.

学会報告
柴山由理子「国民年金機構（Kansanelakelaitos: Kela）の歴史的展開から見るフィンランドの社会政策」北ヨーロッパ学会

2020 年度
論文
柴山由理子「国民年金機構 Kela(Kansanelakelaitos)の歴史的展開から見るフィンランドの社会政策」査読有)、北ヨーロッパ研究 17 巻、67-80.

学会報告
柴山由理子「フィンランド農民政党の社会政策の理念に関する一考察」北ヨーロッパ学会

2021 年度
論文
柴山由理子「フィンランドの農民政党についての一考察 - サンテリ・アルキオの思想 - 」（査読有)、北ヨーロッパ研究 17 巻、91-102.

論考
柴山由理子「マリン政権はフィンランドの未来を切り開けるか」世界４月号、岩波書店、173-182.

学会報告
柴山由理子「ポスト工業社会時代のフィンランド社会政策：1980 年代以降の言説の変化に焦点を当てて」北ヨーロッパ学会

2022 年度
論文
柴山由理子「フィンランドにおける年金議論の政治過程－1950-60 年代の国民年金改革および職業年金制度導入に焦点を当てて－」（査読有)、北ヨーロッパ研究 18 巻、63-73.

学会報告
柴山由理子「フィンランドにおける健康保険導入をめぐる議論 ―1950 年代以降の政治過程に焦点を当てて」北ヨーロッパ学会

2023 年度
論文
柴山由理子「フィンランドにおける健康保険導入の政治過程―1950-60 年代の政党政治に焦点を当ててー」（査読有)、北ヨーロッパ研究 19 巻、37-47.

学会報告
柴山由理子「フィンランド福祉国家建設における農民政党の役割」日本比較政治学会

ほか

以　上

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　5件）

１．著者名 柴山由理子	４．巻 19巻
２．論文標題 「フィンランドにおける健康保険導入の政治過程―1950-60年代の政党政治に焦点を当ててー」	５．発行年 2023年
３．雑誌名 北ヨーロッパ研究	６．最初と最後の頁 37-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 柴山由理子	４．巻 54号
２．論文標題 「北欧中立国へのインパクト―フィンランドを中心に（「ウクライナ戦争」のインパクト）」	５．発行年 2023年
３．雑誌名 法の科学	６．最初と最後の頁 86-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 柴山由理子	４．巻 7月号
２．論文標題 「〈中立政策の終焉〉フィンランドの歴史的転換―NATO加盟へ苦渋の決断」「特集２　侵略の代償―ウクライナ危機と国際社会」	５．発行年 2022年
３．雑誌名 岩波書店「世界」	６．最初と最後の頁 212-219
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 柴山由理子	４．巻 18巻
２．論文標題 フィンランドにおける年金議論の政治過程－1950-60年代の国民年金改革および職業年金制度導入に焦点を当てて－	５．発行年 2022年
３．雑誌名 北ヨーロッパ研究	６．最初と最後の頁 63-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 柴山由理子	4．巻 17
2．論文標題 フィンランドの農民政党についての一考察 - サンテリ・アルキオの思想 -	5．発行年 2021年
3．雑誌名 北ヨーロッパ研究	6．最初と最後の頁 91-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 柴山由理子	4．巻 4月号
2．論文標題 マリン政権はフィンランドの未来を切り開けるか	5．発行年 2021年
3．雑誌名 世界（岩波書店）	6．最初と最後の頁 173-182
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 柴山由理子	4．巻 16
2．論文標題 国民年金機構Kela(Kansanelakelaitos)の歴史的展開から見るフィンランドの社会政策	5．発行年 2020年
3．雑誌名 北ヨーロッパ研究	6．最初と最後の頁 67-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 徳丸 宜穂、柴山 由理子	4．巻 15
2．論文標題 フィンランドにおける普遍主義の特質とベーシックインカム社会実験	5．発行年 2019年
3．雑誌名 北ヨーロッパ研究	6．最初と最後の頁 13-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24579/janes.15.0_13	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計13件（うち招待講演　8件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 柴山由理子
2．発表標題 「フィンランドにおける健康保険導入をめぐる議論 ―1950年代以降の政治過程に焦点を当てて」
3．学会等名 北ヨーロッパ学会
4．発表年 2022年

1．発表者名 柴山由理子
2．発表標題 コロキウム②「『ウクライナ戦争』のインパクト」「北欧中立国へのインパクト―フィンランドを中心に」
3．学会等名 民主主義科学者協会（招待講演）
4．発表年 2022年

1．発表者名 柴山由理子
2．発表標題 「北欧モデルは日本の人的資本にどのような利益をもたらすか？」
3．学会等名 北欧５ヶ国大使館合同 セミナー「日本における新しい資本主義と北欧の視点：リスキリングと労働の流動化」（招待講演）
4．発表年 2023年

1．発表者名 柴山由理子
2．発表標題 「ポスト工業社会時代のフィンランド社会政策：1980年代以降の言説の変化に焦点を当てて」
3．学会等名 北ヨーロッパ学会
4．発表年 2021年

１．発表者名 柴山由理子
２．発表標題 「創造都市への転換－ヘルシンキのまちづくり」
３．学会等名 社団法人スマートシティインスティテュート（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Yuriko Shibayama
２．発表標題 The Case of Citizens Participation in City Development　Inspiration from Nordic Countries
３．学会等名 京都スマートシティエキスポ2021（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 柴山由理子
２．発表標題 「フィンランド農民政党の社会政策の理念に関する一考察」
３．学会等名 北ヨーロッパ学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 柴山由理子
２．発表標題 「北欧諸国の概要」
３．学会等名 東海大学情報通信学部公開セミナー「北欧とイノベーション　北欧を通じて日本の未来を考える」（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 柴山由理子
２．発表標題 「大人気！北欧ガラスのひみつ―北欧企業のマーケティング戦略―」
３．学会等名 日本ガラス工芸学会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 柴山由理子
２．発表標題 「国民年金機構（Kansanelakelaitos: Kela）の歴史的展開から見るフィンランドの社会政策」
３．学会等名 北ヨーロッパ学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 柴山由理子
２．発表標題 「フィンランドにおける2019年議会選挙の分析」
３．学会等名 日本フィンランド協会９月例会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 柴山由理子
２．発表標題 「北欧の教育と留学事情～フィンランドの生涯学習・成人教育を中心に～」
３．学会等名 県立熊谷図書館 資料展・講演会・演奏会「Moi Suomi!（モイ スオミ）幸福の国 フィンランドを知ろう」（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 柴山由理子
２．発表標題 「フィンランド福祉国家建設における農民政党の役割」
３．学会等名 日本比較政治学会
４．発表年 2023年

〔図書〕　計1件

１．著者名 織田憲嗣、岡本周、柴山由理子ほか	４．発行年 2023年
２．出版社 株式会社パイインターナショナル	５．総ページ数 310
３．書名 『ていねいに美しく暮らす北欧デザイン』（共同執筆）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Untitled https://untitled.community/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関